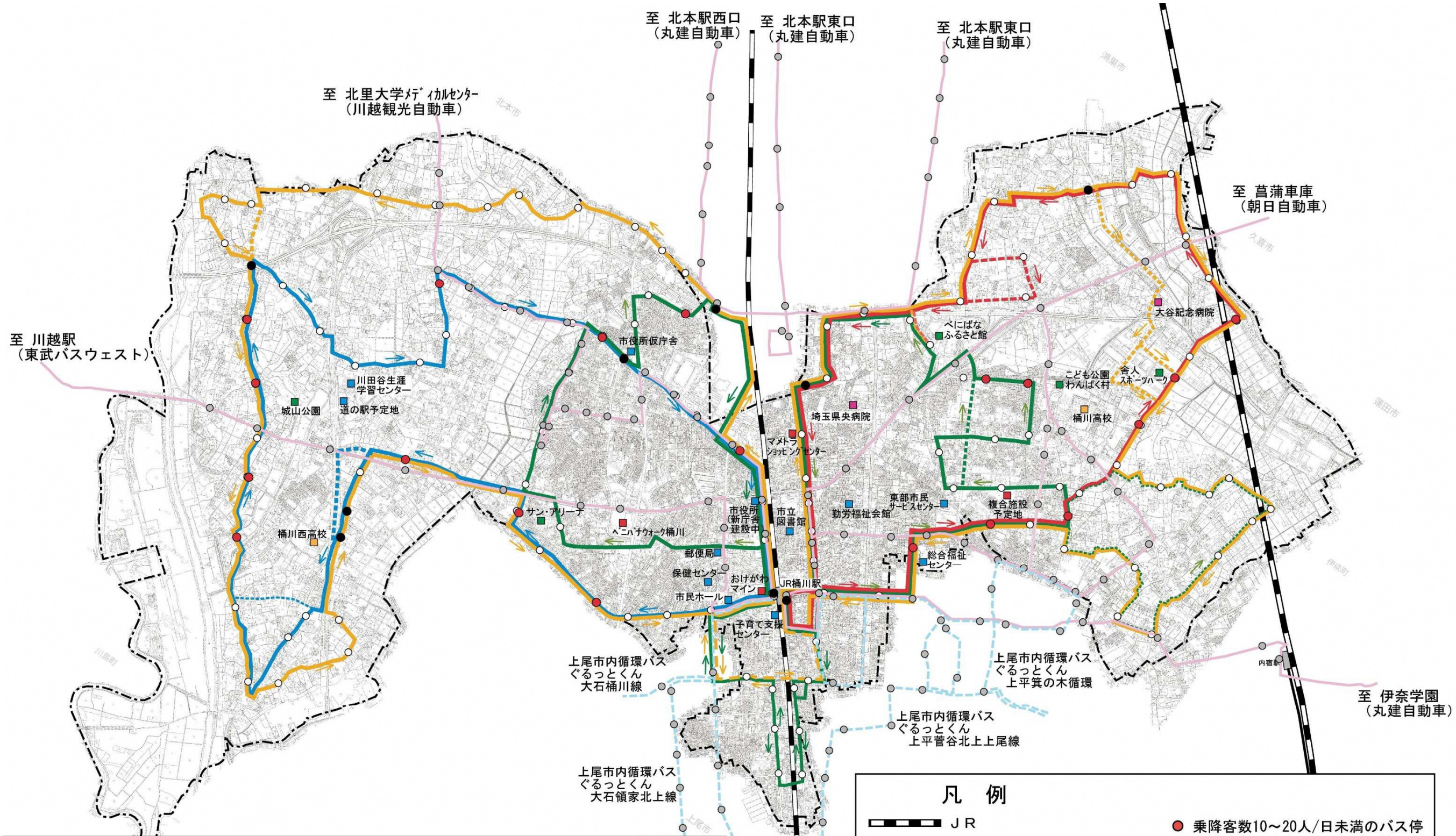


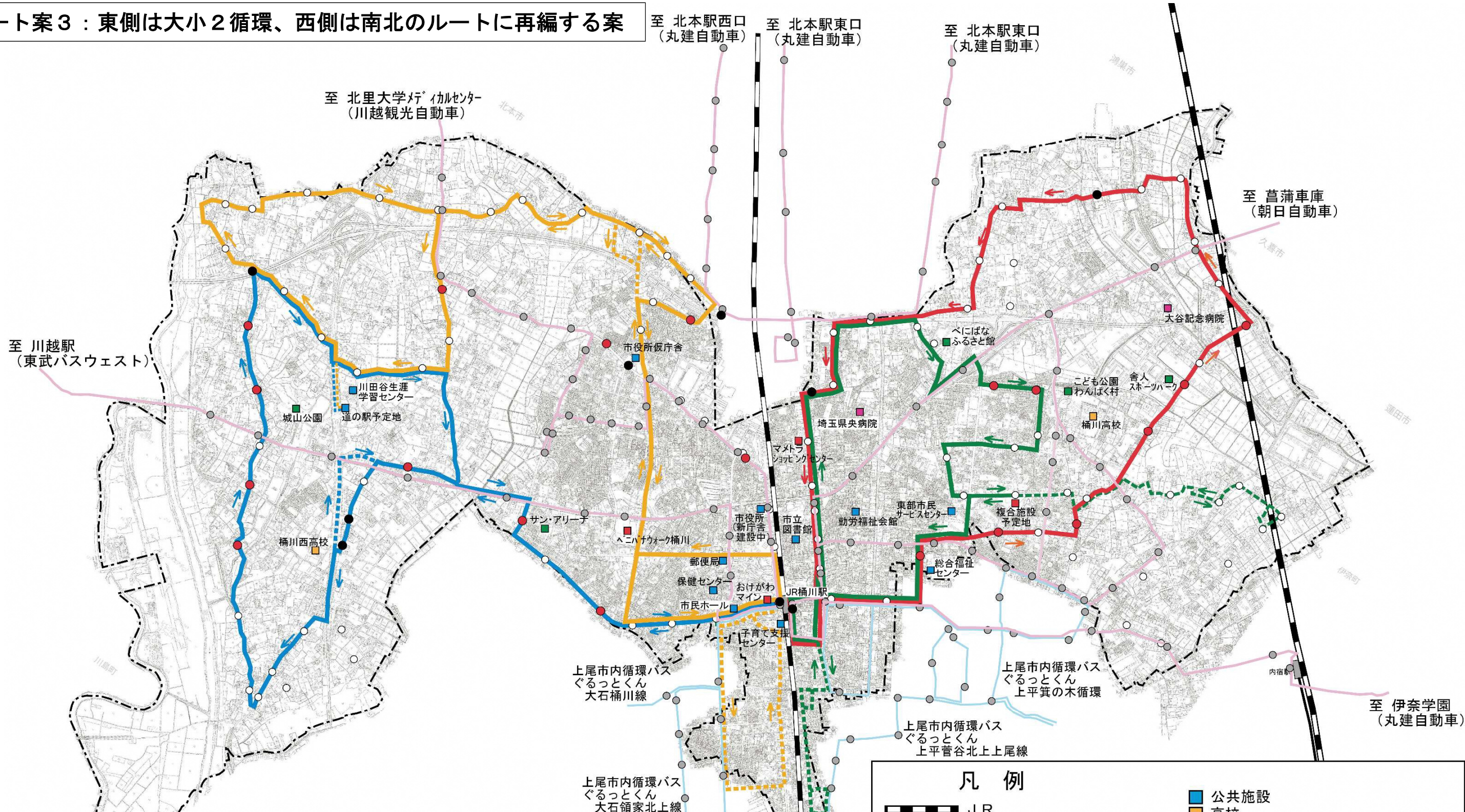
ルート案1：現行のルート案を基に、一部ルートを変更し、外回りを逆回りとして、一部相互運行を可能とする案



凡例	
—+—+—+—	J R
—○—	路線バス
—○—	上尾市市内循環バス
—○—	市内循環バス(東循環)
—○—	市内循環バス(西循環)
—○—	市内循環バス(東西循環(外回り))
—○—	市内循環バス(東西循環(内回り))
●	乗降客数10~20人/日未満のバス停
●	乗降客数20人/日以上
■	公共施設
■	高校
■	大規模商業施設
■	病院
■	公園・スポーツ施設

- メリット**
- 現行ルートの基本とし、ルートに大きな変更がないことから、現利用者への影響が少ない。
  - 路線が重複しているところは、相互運行が実現する。
- デメリット**
- ルート具体化に際し、公共施設等へのアクセスを確保(寄り道)するルートの調整をした場合には、ルート延長が拡大し、所要時間も現状よりも長くなる可能性が高い。
  - 運行方向を逆にすることで、駅への到達時間などが遅くなるなど、サービス低下が生じるところがある。
  - 路線が重複しているところは、逆方向を設けた分ももとの方向の本数が少なくなる。

# ルート案3：東側は大小2循環、西側は南北のルートに再編する案



**メリット**

- 駅西側は、郊外まで往復するコンパクトなルートになることで、各ルートが短縮され、桶川駅への利便性が高まる。
- 駅東側は、内回り（東口→坂田）、外回り（東口→加納）を設定し、それぞれが逆に運行することで、市街地は組み合わせにより相互運行となる。

**デメリット**

- ルートに大きな変更があることから、バス停の一部廃止が見込まれ、現利用者への影響が懸念される。
- 東口から西口（逆も同様）へ向かう場合には、駅での乗り継ぎが必要となり、サービスが低下する。

**凡例**

	JR		公共施設
	路線バス		高校
	上尾市市内循環バス		大規模商業施設
	市内循環バス(坂田→舎人スポーツパーク→東部工業団地回り)		病院
	市内循環バス(加納→べにばなふるさと館→総合福祉センター回り)		公園・スポーツ施設
	市内循環バス(殿山団地→諏訪神社→生涯学習センター→はにわの里回り)		
	市内循環バス(サン・アリーナ→桶川西高校→川田谷原回り)		
	時間を限定して運行する区間		
	乗降客数10~20人/日未満のバス停		
	乗降客数20人/日以上		